

グリム童話において幸せになる人と不幸せになる人

英語班：岡田 咲桜

要約

世界には同じ様な設定や話の流れで、異なる結末を迎える物語が数多くある。この理由は、物語が作られた場所の歴史や民族性の違いがどの様に物語が終わるかに影響しているからだと考えた。本研究では、いくつかのグリム童話を調査して、「グリム童話の中で幸せになる人は国やコミュニティを守る人である」、という仮説を検証した。結果として、ヨーロッパの歴史、特に当時フランスに脅かされていたことが、グリム童話に大きな影響を与えているということが分かった。

Abstract

All over the world, there are many stories which share similar settings and story content, but have different endings. The reason for this might be because there are differences in history or ethnicities in the countries in which those stories originated. In this research, we started some of the world-famous Grimm's fairy tales and hypothesized that "people who can be happy in the end of Grimm's fairy tales are those who protect their community." We find in this research that European histories have great influences on the stories of Grimm's fairy tales, especially in areas which Grimm's fairy tales were set had long suffered under the influence of France.

1. 序論

世界には同じような内容で違う結末を持つ物語が多くある。例えば「シンデレラ」¹と「サンドリヨン」²だ。これら2つの物語は、元々同じ民族伝承であったため、物語の中盤までの内容が酷似している。しかし、これらの物語の中で、主人公灰被りの義理の姉たちは全く異なる2つの結末を迎えるのだ。なぜこれほどにも相対する結末をむかえるのか。私はこの理由はその物語が生まれた場所、民族の文化や歴史的背景にあると考えた。私はこれを検証するため、本研究では世界的に有名な童話であるグリム童話を用いる。

グリム童話が編纂された当時のヨーロッパはナポレオンによる侵略に脅かされていた。特にこの童話が編纂された場所であるドイツ周辺においては、ベルリンが占領されるなど特に緊張した状況下にあった。そのため、当時国や家を守る、ということが大切にされていたと考えられる。

以上のことから、「グリム童話の中で幸せになる人は国やコミュニティを守る人である」という仮説を立てた。このことを、グリム童話のいくつかを読み解くことによって考える。

2. 研究手法

1. グリム童話の中のいくつかの物語を読み、以下の項目について分析する。

① 最終的に不幸になる登場人物の共通点を探る。

② 国やコミュニティの存続を示唆する単語や行動を抜き出し、その共通点を探る。

2. 日本の物語についても①②の結果から得られた考察が導けるのかを物語を読んで調べる。

3. 4. 結果・考察

1.

①不幸になる人の共通点

作品名	不幸になる人	行動
シンデレラ	2人の義理の姉	シンデレラをいじめる
白雪姫 ³	継母	白雪姫を殺そうとする
赤ずきん ⁴	狼	赤ずきんと祖母を食べようとする
死神の名付け親 ⁵	医者	死神(名付け親)に嘘を付く
うまい商売 ⁶	ユダヤ人	王への裏切り
狼と七匹の子ヤギ ⁷	狼	子ヤギたちを食べようとする

「シンデレラ」で義理の姉たちからいじめられていたシンデレラは最終的に国の王妃となる人物である。次期王妃、つまり将来国の象徴となる彼女をいじめていた2人は、最後それぞれ片目とつま先、かかとを失う。2人が再起不能となることにより、国の象徴に対する危険が去った、と捉えられる。「白雪姫」では白雪姫を殺そうとしていた継母が焼けた鉄の靴を履かされて死んでしまう。「赤ずきん」では狼が熱湯の中で溺れ死に、「死神の名付け親」では医者が寿命を削られて死ぬ。「うまい商売」ではユダヤ人がむち打ちにあい、「狼と七匹の子ヤギ」では狼が井戸で溺れ死ぬ。

以上の形で不幸になった登場人物は、表の行動にあるように、国などのコミュニティの存続を脅かしたり、裏切ったりした人物であった。

②国やコミュニティの存続を示唆する単語や行動

作品名	描写	意味
シンデレラ	鳩、梨	女性の豊穣さ
白雪姫	後の鏡に対する発言	女性の豊穣さ
いばら姫 ⁸	13人目の仙女を招かなかった理由	民間信仰の廃止
ブルーメンの音楽隊 ⁹	動物たちが殺されかけている理由	家の存続
ヘンゼルとグレーテル ¹⁰	2人の子供を追い出した理由	家の存続
忠臣ヨハネス ¹¹	命をかけて王を守る描写	国の存続

「シンデレラ」では当時の女性の理想の体型(安産型)を表す「梨」や繁殖能力の高い動物である「鳩」などのキーワードが用いられた。当時、家や国の存続には男児を産むことが必要不可

欠であったため、このような単語が用いられたと考えられる。「白雪姫」で后が鏡に問った「美しさ」も美貌という意味ではなく女性としての豊穡さという意味だろう。

「いばら姫」で13人目の仙女がパーティに招かれなかった理由は、13という数字を避けたからだと思われる。元々ゲルマン・ケルトの自然信仰の教えでは太陰暦(28日×13ヶ月)に基づいて時が流れており、13という数字は民間に馴染み深いものであった。しかし、キリスト教化に伴い太陰暦を廃止し、太陽暦(30日×12ヶ月)になってからは13という数字が排除され嫌われる様になった。13という数字を排除することで民間信仰を排除し、国家の安泰を図ろうとしたのではないだろうか。

「ブルーメンの音楽隊」と「ヘンゼルとグレーテル」では、貧しい庶民たちが生き延びて家の存続を守るためにしていた嫉捨や間引きのような描写が見られる。「忠臣ヨハネス」では、ヨハネスが命をかけて王に秘密を告白し国を守るという描写があった。

グリム童話が編纂された時、ヨーロッパではナポレオンによる侵略から国を守ることが重視されたため、グリム童話の中でも国やコミュニティを守る描写が多く見られたと考えた。また、当時まだドイツという国がなくゲルマン人の国へのあこがれが強かったことも理由として考えられる。

2.

作品名	描写	根付く考え方
笠地蔵 ¹²	おじいさんの行動	情けは人の為ならず
花咲かじいさん ¹³	穴から出てきたものの差	善因善果・悪因悪果・因果応報

「笠地蔵」でおじいさんが地蔵に対して「情け」をかけると、その夜地蔵たちからお返しに金銀財宝が返ってきた。これは、「情けは人のためならず、巡り巡って必ず自分に返って来る」という、日本に昔からある考え方に根付くものだろう。また、「花咲かじいさん」では、良いことをしたおじいさんは犬が示した穴を掘ると金銀財宝が出てくるが、悪いことをしたおじいさんが同じように穴を掘ると虫や汚物などが出てきた。これも「善因善果」・「悪因悪果」・「因果応報」などの仏教用語を示唆していると考えた。

5. 結論・展望

グリム童話の中で幸せになる人物は自分のコミュニティを守る人物であり、その理由は当時のヨーロッパの価値観・歴史的背景にあった。グリム童話だけでなく、日本の昔物語も日本の価値観・文化を大きく反映していた。これらのことからわかるように、物語はその物語の背景にある歴史・文化・価値観に強く影響されている。同じような物語でも、全く異なる結末を迎える原因はここにある。

言い換えれば、物語を読むことによってその国の歴史・文化・価値観を感じ、知ることができるということだ。

グローバル化が進む現代において、相手の文化を理解することが重要視されるが、その手段として相手の国の物語を読むことが1つの手段になるのではないかと考える。どのような物語がどのような文化の理解に役に立つのか、より人々に受け入れてもらいやすいのか、今後、さらに明らかにしていきたい。

6. 引用文献・参考文献

1. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 2. 朝倉朗子訳. (1982) 『ペロー童話集』. 岩波文庫.
 3. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 4. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 5. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 6. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 7. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 8. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 9. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 10. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 11. 金田鬼一訳. (1979). 『完訳グリム童話』. 岩波文庫.
 12. 松谷みよ子. (2006). 『かさじぞう』. 童心社.
 13. 石崎洋司. (2012). 『はなさかじいさん』. 講談社.
- 野口芳子. (2016). 『グリム童話のメタファー：固定観念を覆す解釈』. 勁草書房.
 - 高木昌史. (2017). 『グリム童話事典』. 三弥井書店.